
アルス国際製靴学校研修体験記

(平成13年 9月21日～12月27日)

有限会社テス・モード 高橋 陽 介

3カ月の研修を終え、ミラノで過ごした日々のことを思い出します。私は学生の時に1度、イタリアに旅行をした事がありましたが、その時は約1週間の日程で3都市を観光する忙しい旅行だったので、言葉はもちろんイタリアで生活することがどういうものなのか全く想像が出来ませんでした。

ARS 国際製靴学校での授業はイタリア語と英語クラスの2クラスで行われます。私達はイタリア語クラスで50年も紙型を教えている、ルナティー先生から学びました。先生がまず、手本を見せながらイタリア語と英語で説明をして、それを各自で作成するという授業の進め方でした。イタリア語は日本で少しは勉強をしましたが、部分的に単語を聞き取ることが精一杯で、話したいことも言葉が上手く出てこないというもどかしい事が何度となくありました。しかし、同じクラスのイタリア人や他の国の人達は、とても陽気でエネルギーに沢山話しかけてくれるので、色々な交流が出来、毎日がとても新鮮でした。

○ 生活について

3カ月間、私達が生活したレジデンスはミラノの中心から少し離れた住宅街にあり、近くには、色々な展示会などが開かれる FIERA MILANO があります。生活に必要な物を買うスーパーや食料品店、パル、レストラン等は歩いて行ける範囲にありました。

授業を受ける教室には、1 F(日本で言えば2 F)でつながっていて通学時間は殆どかかりません。受付には24時間、管理人がおり、電話の取次ぎをしてもらえます。部屋で故障があればミケーレさんが何でも直してくれます。学生の半分以上がこのレジデンスに住んでいます。学



生以外にも一般の方も生活していて、全然うるさくしていないのに騒々しいと苦情が出るような事もありました。

私は兵庫県から来た人と二人部屋で、部屋は広くベッドが2つ並んでいて、テーブルやソファが置いてあるスペースがあり、バス、トイレ等、生活するには充分なものが揃っています。キッチンには、鍋や食器類が置いてあるので自炊をするにも便利です。

掃除とベットメイクは、週末以外は毎日してくれますし、タオル類も月・水・金曜日に交換してくれます。ただ、欠点を挙げるとすればシャワーのお湯が浴びている間に徐々に冷たくなって行くことです。古い建物でしたが、暮し易い部屋でした。

出発前の情報では、ミラノの気候は東京とあまり変わらないと聞いていましたが、今年は10月半ばまでは異常と言えるくらいに暖かく、夏時間から冬時間になると同時に急激に寒くなり、東京よりも気温が低かった様です。

ミラノの街並みは、近代的な建物と古い建築物が違和感なく共存しており、まるでポストカードの様に美しく、街を歩いていると写真を撮らず撮りたくなってしまふほど素敵な場所がたくさんあり、このような街で3カ月間暮せた



事が、良い思い出になりました。

○ 研修内容

イタリア語クラス講師：Lunati Adriano

期間：2001年9月25日～12月21日

授業時間：月～木曜日

9時～12時、13時30分～17時

金曜日

9時～12時、13時30分～16時

実技：木型に正しくセンターラインを引く方法から始まり、基本原型の取り方。

- ・外羽根
- ・内羽根パンプス
- ・モカシン
- ・袋モカ
- ・サンダル
- ・アシンメトリーデザイン
- ・ロングブーツ
- ・ショートブーツ
- ・サボ 等

基本形とその応用デザイン。

また毎週月曜日には Monday Exercise という配られたデザイン2～3点のスタンダード型と紙アップパーを作成し、要した時間を計ります。

その他にルナティー先生が指定したデザインは、アップパースタンダード、紙アップパー、ライニング、裁断型、デザイン画を Busta といわれる封筒に入れ提出しました。紳士、婦人、子供と普段の仕事では関わらない種類の紙型も作成し、大変勉強になりました。

理論：月曜日を除いたほぼ毎朝1時間程講義があり、内容は

- ・ラストプロポーション：各部の名称、計算方法
- ・インターナショナルサイズ：French、English、American、cm、Inch の表示方法と換算
- ・製法：グッドイヤー、イデアル、カリフォ

ルニア等、種類別の構造と特徴

- ・革について：革の種類と用途、裁断方法、型入れ、測定方法とその計算(単位)、革のなめし法等

○ 卒業試験

筆記試験は、指定された紙に DOMANDE D'ESAME と書き表紙を作り日本語の問題が配られ日本語で記入するものでした。実技試験は、あらかじめ紳士、婦人、子供のいずれかを選んでおき、その中で2クラス合同にくじ引きが行われ各自の製作するデザインを決めます。そして紙型、紙アップパー、ライニングを封筒に入れ提出。面接は2人ずつ行い面接官はルナティー先生他2名で、今まで提出した全ての物を持ってチェックをしてもらい、簡単な問題が出されるというものです。

○ 研修を終えて

今回の3カ月の研修では、毎日靴のことを考え、紙型を切ることに集中出来、とても充実した日々を送ることが出来ました。それでも ARS で教わった事のすべてを習得出来たわけではないので今後更に勉強を続け、今回学んだことを生かしつつ、またより良い自分にあった方法を見つけ出していきたいです。そして、短かった3カ月の間にやり残してしまった事が沢山ありますがそれらを、これから先やり遂げられるよう頑張っていきます。

最後になりますが、色々な出会いと貴重な体験をさせて下さいました関係者の皆様本当に有り難うございました。

アルス国際製靴学校研修体験記

(平成13年 9月21日～12月27日)

株式会社エコー 新井 まさ子

体験記の前にこの場をお借りし、東京都担当職員の方々、常々、業界発展・後進育成にご尽力なさっておられ、この度は入学手続き全て御手配下さった㈱シャミオール様に感謝と御礼を申し上げます。

また、イタリア語をわからない私共に重複する内容でも快く御指導下さったルナティー先生、諸々全般の御手配、御世話下さった ARS 学校関係者皆様、前年研修を終了されアドバイス、参考資料を下さったクラウン製靴・堀内様、内田製靴・岩田様にも御礼を申し上げます。

1 アルス国際靴学校

(1) 履修課程

① 授業内容

a. 授業スケジュール

月～木：午前 9：00～12：00
午後13：30～17：00

金：午前 9：00～12：00
午後13：30～16：00

土、日、祝日は休講（木曜日祝日の場合は4連休となる）

b. 紙型

外羽根
内羽根
パンプス
ザンダル
ブーツ
モカシン
サボ

上記の基本モデル及び、その応用モデルの作成が行われました。最初に基本モデルを作成し、その後応用モデル

を作成しますが、仕上がった者より新しい応用モデルが与えられたり、卒業製作の作成や復習をする事が可能でした。

日本であればクラス全体が足並みを揃え進行するのですが、出来る者の進行状況を中心にしていたように感じました。またこれに関心を覚え、数人の方々にイタリアに於ける学校教育制度に関し伺ったところ、これと同様な事柄が多々あり、日本とイタリアとの相違点の1つと考えられました。

c. 製靴理論

ラスト・プロポーション（名称・測足方法・基本数値算出方法）

インターナショナル・サイズ（表示別サイズ換算方法）

革（種類、用途、なめし）

製法（種類・特徴・用途）

グレーディング

裁断方法（裁断方向・部位）

日本に於ける皮革名称(カーフ、キップ等)及び定義とは異なるものがあり、その確認が出来ました事は今後のイタリア製皮革の使用に役立つように思いました。

② クラス編成

履修するルナティー・システムの構築者であるルナティー先生のイタリア語クラスと英語クラスがありました。ルナティー先生の授業内容はイタリア語のわからない私でも判り易く、充実しており

ましたが、細かい説明等、どうしても理解できない事があり、随分と聞き漏らしていた事と思います。それを考えた場合、英語クラスであれば、このシステムをもう少しは理解できたのではという点においては残念であったように思います。また、その反面、イタリア人と時間をともにする事により少しでもイタリア人を知る機会に恵まれた事は大変貴重な時間であったとも思います。

③ Monday Exercise

毎月曜日午前中は「Monday Exercise」が実施されました。

これは復習を兼ね、履修済課程を応用したデザインが2～3点与えられ、型紙(表・裏)、裁断型(表・裏)、デッサンを作成し提出するものであり、完成時間も考慮されていました。

初めの内は、2点を午前中に作成するので精一杯でしたが、後半になると課題も3～4点と増えますが、毎日の受講の成果でしょうか、作成点数が増えても時間内に完成できるようになっておりました。帰国後の仕事に於いては時間を要求される事が大概であり、このMonday Exerciseは復習、スピード、応用の点に於いて良い訓練であったと思います。

④ 卒業試験

「Graduation Examination」—ブックレット

この内容に準じた筆記試験が実施されると考えておりましたが、筆記試験は無く授業時間内に作成時間が与られ、講義内容を約A3用紙10枚程にまとめ面接時に持参するのみでした。

作成にあたっては、卒業生が作成したものが手本として渡されたり、挿絵を入れたり、通常の課程とは異なり時間にも追われず、小学生の頃の絵日記作成を思い出させるものでした。

「Graduation Examination」—基本型
4点

通常授業時間内に作成し、これと同様に卒業試験にて作成すると考えておりましたが、これが卒業試験時に提出されるものでした。

完成まで先生が確認してくださるので、不可のものを卒業試験に提出する事はありませんが、面接時に更に厳しくチェックされました。1ミリ、0.5ミリまでラインの相違を指摘されてしまいました。いまだ未熟ではありますが私の帰国後の課題の1つかと思いました。

「Graduation Examination」—面接

学校外よりインタビュー2名(ルナティー先生の卒業生)が面接官としておいでになり、生徒2名ずつインタビュー、ルナティー先生、英語クラス担当のパウロ先生又はロベルト先生のもと面接が行われました。

卒業制作作品、Monday Exercise、基本形4点等を持参し、それら全てを御覧頂いた後、口答質問が2、3ありました。少々緊張しておりましたら、エスプレッソを先生方とともに頂かせて下さり緊張をほぐして下さいたりと、日本とは違うイタリアの柔軟さのようなものを感じました。

「Graduation Examination」—卒業制作

各自最低1点、つり込みまでの作品製作をしました。

授業時間外に作成するものでありましたが、私達5名の日本人は何時から開始するなどのインフォメーションを知らずに(イタリア語であった為、聞き漏らしていたのでしょう)、少々作成開始が遅れてしまいました。これは遅れたと言ってもまだ時間の余裕はありましたので大きな問題ではありませんでしたが、材料の問題がありました。基本的には学校が有する材料を使用しますが、使用したいと

思うような革はやはり早くに無くなってしまいました。しかし、授業後、イタリア人のクラスメートが自分で用意した革を分けようかと言ってくれたり、先生が飾りリボンを用意して下さったりと助けて頂き完成する事ができました。

④ 卒業合否

合否に関しては、全生徒の面接が終了した後に発表されました。卒業試験テスト結果は後日郵送で「Clarification」として通知され、その後、「卒業証明書」が郵送されました。

何年かぶりに手にする卒業証明書、これを手にした時というのは3ヶ月という短い研修期間とはいえ、とても貴重な体験でしたので大変感慨深いものでした。

2 受講外日程

(1) 旅程

① 9月21日

成田～フランス（シャルル・ドゴール空港）：エール・フランス航空

フランス（シャルル・ドゴール空港）～ミラノ（マルペンサ空港）：エール・フランス航空

たった2名の出国の為に阪神トラベル担当者の方がチェック・イン終了まで添乗下さいました。

フランス到着が遅れた為、空港内を走りなんとかミラノ行き搭乗口に到着したものの出発時刻ぎりぎり、しかし、ミラノ行きが遅延の為、なんとか乗り過ごさずに搭乗する事ができました。

② 9月21日～9月24日

21日夜10時頃に学校に併設されたアルス寮に到着。

22、23、24日の3日間は3ヶ月の生活の準備。その為の近辺探索、ミラノ市内観光をしました。後にこの3日間を振り返りますと、この時間があつたおかげで時差に慣れる事もでき、授業もあるなかでの不慣れな地での生活準備ができた事

は、大変ありがたいものでありました。

（他県の研修生は前日着等でしたのでそれと比較しても、東京都の日程設定は研修生に寛大な御配慮を頂いたものでありました。）

* 9月24日は入学登録手続日の日程でしたが、学校の方はほとんどいらっしゃらず、担当の方が1名いらっしゃいましたが、開校当日に来るようにとの指示で24日も自由時間となりました。しかし、当日9時に行くとは受講生は皆着席済みでしたので次回の研修生の方々は9時の15分前には行かれると良いかと思えます。

③ 12月22日

この日もまた東京都のご高配により、他県研修生は21日に卒業後、翌朝（つまり22日）に出発しましたが、荷作り等の時間の余裕を持つ事ができました。

④ 12月23日～26日

フランス滞在。

クリスマスの為（キリスト教徒が大半を占める国であり、ちょうど日本の正月のような状態）、特に24日は大部分の店は早仕まい、又25日は美術館等もみな休業で天候も悪く、大半をホテルで過ごす事となりました。レストランですら日本食レストランしか開いておらず、やっと見つけた惣菜店の品をホテルで食するような状態でした。せっかく研修生を慮って下さったフランス視察でしたが、市場視察等が充分に出来ず、せっかく頂きました時間をいかしきれず大変残念でありました。

同じヨーロッパ大陸で隣接する国でありながら一度国境を超えると言語ならず、文化、それら醸しだす国の雰囲気、イタリアと並ぶファッションの発信国の市場視察が、クリスマス以外の時期にならないものかと思えてしかたありませんでした。

(2) 休日

他国に於いて拠点を持ち旅をする事は通常の旅行ではなかなか実現できないものであり、週末も金曜日は4時に終了し、土、日曜日と休講でしたので多くのイタリア国内を旅行する事ができました。観光でもありましたが、旅先での人々との会話、訪ねた異業種工場の方々との会話、革の産地のサンタ・クロチェ探訪、靴工場訪問により、多くのイタリア人の方々から文化、衣食住、製品作りの全ての話題に共通して「ファンタジー」という言葉を多く耳にしました。これは私たち日本人には持ち合わせない感覚、観念なのではないでしょうか。そして、この「ファンタジー」という観念が根底にあり、我々日本人の発想とは何か違うデザイン、革の染色等に表れているように思うと同時に少しばかりですがイタリアに対する理解の糸口がつかめたような気がしました。

歴史的建造物に於いてもその歴史背景を兼ね合せ見学する事により、イタリアを理解するためのヒントがあったように感じら

れました。

このような時間を得るために、滞在中の休暇があったためというよりほかありません。

3 研修を終えて

研修を振り返ると、初めは長く感じられましたが、終了してみると、あっという間の3ヶ月間でした。

靴の本場といわれるイタリアにて研修を受けられた事は単に研修内容のみではなく、実際に現地に滞在する事でしか得る事の出来ない様々なものがあり、理解をするにはまだまだほど遠いものがありますが、靴作りに対する考え方の相違について、その根底の一端に触れられたのではないのでしょうか。

イタリアのみではなく、通常はあまり機会のない関西地方や他国の製靴業の方々との交流においても全てが貴重な経験になりました。

この貴重な経験により学んだ事をより良い靴作りに反映できる事を願っております。